

第 3 回 学 校 協 議 会

日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）
午前 10 時 ～ 午前 12 時
会場：校長室

〈 会 議 録 〉

1 開 会 事務局長 教頭 田畑 匡

2 校長挨拶 校長 辻 芳之

日頃からのご協力、ご支援ありがとうございます。本日は本年度最終の学校協議会を開催させていただきます。今年一年間の教育活動を振り返って皆さんからのご意見や提言をいただければと思っています。

3 議 事

（1）本年度の取組について

校長が一年間の本校の教育活動を振り返って、学校経営計画の実施状況について説明した。

（本校の主な学校行事の取組について）

○体育祭、文化祭等の学校行事は、（定員割れによる）3年生の生徒数の減少から活動の困難さが予想されたが、3年生2クラスを3クラス展開とするなど工夫を凝らしたが結果が功を奏して、活発な活動が展開された。

（高大連携について）

○近年特に大学との連携が進んでいるが、今年度も新たに大阪成蹊大学との連携協定締結が間もなく行われる予定である。

○大阪音楽大学との連携講座も例年以上に多く開催され、著名な本山秀毅先生による合唱指導を本校の芸術発表会の前に初めて開催することができ、これが例年以上に素晴らしい舞台発表につながった。

○文化庁による「文化芸術による子どもの育成事業」を活用してのギターの公開講座も特に好評で、生徒への教育的効果も大きかった。

○従来の講座に加え青山大学歴史博物館「戦国武将の手紙」や大手前大学「プロのスイーツづくり」などの連携講座も開催され、大きな成果があった。

（地域連携について）

○今年度の地域連携活動は、天候にも恵まれ参加者も多く活発に行われた。特に「地域と学校を結ぶ文化祭」では、コーラス部による新たな「ゴスペル」への挑戦や弦楽部による素晴らしい演奏が好評であった。

○毎年クリスマスに行われる27回を数える「フレンドリーコンサート」、小・中・高および卒業生や地域住民合同の演奏会は池田市民文化会館で開催され、盛況であった。地域の活性化や子どもたちの学びに大きな役割を果たした。

○池田市子育て支援課との連携行事の「のびのび広場」は今年も新たな内容で取り組み、家庭選択者によるアレルギー食材を除いたお菓子づくりや将来幼児教育をめざす生徒たちによる手作り遊具によるお遊びや読み聞かせ、また音楽専門コース生によるリトミックなど音楽のイベントを開催し、近年では最高の多くの乳幼児や保護者の方の参加があった。

（広報活動について）

○外部での学校説明会の開催や中学校への出前授業や吹奏楽のワンポイントクリニックを行うなど充実した広報活動を展開した。

(校外での芸術活動、行事について)

- 今年の音楽専門コース発表会は、川西市のみつなかホールで開催され、指導の充実により例年以上にレベルの高い発表会が開催された。
- 第31回となる芸術発表会は、池田市民文化会館を貸し切って行われ、舞台では音楽の選択者や専門コース生の発表が、またロビーやコンベンションホールでは美術や書道の選択者による作品展示が行われた。舞台でのコーラスの発表は、前述の高大連携による合唱指導や今年度声楽専門の教員の配置が実現したことなどにより、格段のレベルの向上を見た。また、美術・書道の作品展示についてもそれぞれ工夫を凝らした新たな作品分野を加えて、充実したものとなった。
- その他、大阪府合唱祭や第1ブロック音楽祭、書道展・美術展などへの出品など多くの活動に参加し、子どもたちの芸術をとおしての学びに大きな成果を上げた。

(今年度のキャリア教育・進路状況について)

- 今年度のインターンシップ参加者は、すでに27名に上り年度末までに40名近くと過去最高を記録する見込みである。受け入れ先の事業所はすでに53にも及び、さらに増える予定。
- 卒業予定者全員の進路が決定した。
- 進学は、連携校を含め音楽、教育関係が多い。音楽専門コース生のうち8名が音楽関連の大学・短大に進学をする。就職者も経済情勢から年度当初より増えたが、全員内定した。特に支援対象生徒が、府のコースステップを活用したインターンシップに参加して大手の企業への就職を決めた。

(海外研修について)

- 昨年、一昨年の台湾海外研修に引き続き、今年度マレーシア海外研修が実施され海外の学校交流や異文化の体験をすることができ、大きな成果があった。参加者のうち、1名がAFSの試験に合格し、この2月よりコスタリカへ留学をしている。

(2) 平成26年度学校教育自己診断結果について

教頭が12月から1月にかけて実施した学校教育自己診断結果について説明した。

(教職員)

- 今年度は、年末の忙しい時期で回答者が少なかったことが問題である。
- キャリア教育の充実に関しては、一様に肯定的である。

(生徒)

- 回収率は、全学年とも高かった。
- ほとんどの質問に対しても肯定的な意見は1年生が低く、学年を追うごとに高くなり3年生が最も高いという傾向にある。
- 「学校に行くのが楽しい」で2年生がやや低いのが気になる。
- 「授業がわかりやすく楽しい」「教え方に工夫をしている先生が多い」で1年生で50%を下回っており、今年度の1年生の学力が低く学習習慣が身に付いていないなどの学習上の困難性が伺える。
- 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」でやはり1年生が肯定的な意見が低い、1年生では勉強の嫌いな生徒の逃げ場所となっており、本来的な使い方ができていないところに問題があるとも考えられる。

(保護者)

- 保護者の回収率が極端に低い。
- 保護者の学校教育への関心の低さが目立つ。
- 提出してくれる保護者は、学校に対して応援してくれている人が多いと考えられる。

(その他)

- 学習指導に関しては、本年度府教育センターのパッケージ研修等を活用して研究授業を行い教員の参加率も高く、大きく授業改善が進んだ。

(3) 大阪府の公立高校の入試制度変更について

資料―大阪府教育委員会「中学生と保護者のみなさんへ」を基に説明

- 相対評価から絶対評価への移行
- 中学校での「チャレンジテスト」の実施

○学力検査が、5教科が基本に

○各校のアドミッションポリシーに従った自己申告書によるボーダーゾーン内の選抜

○入試は1回に統一、特別選抜と一般選抜に区分 など

(4) 本年度の自己評価についての補足

○1年生の遅刻回数が大幅に増加した。

○1年生の部活動入部率が、極端に低かった。全体では50%を超えている。

(全体をととして)

〈協議会委員の意見・提言〉

(保護者との連携について)

○保護者への学校からの通知文が届きにくい。今後学校メールの活用を図っていくために、合格者説明会などの場で直接受信設定をしてもらうのが良いが、パソコンからのメールを受信拒否する設定になっている場合が多い。その解除方法も合わせて説明する方が良い。

○保護者の意識がまだまだ低いので、保護者が学校へ足を運ぶ機会が増えたらいい。子どもの生活が見えると子どもとのコミュニケーションの機会も増える。

保護者がフォローできれば、さらに生徒が居心地のいい学校になる。

○保護者が大学についてもっと知ることができれば、子どもの進路が拡大する。

(学校教育自己診断結果について)

○自己診断結果から、1年生が学校へのなじみが低いことが数値に出ている。先生の努力とともに、生徒の愛着も湧き頑張りが出てくると思う。

○自己診断では学年のカラーが出ている。(学年の進行とともに)先生との関係性も良くなり、3年間成長していつている。課題の多い生徒もいるが、池北へ行きたいという子どもをうまく育てて卒業させてほしい。

○自己診断結果をどう解析するかが課題である。

(学校の取り組みについて)

○将来就職に何が必要かという、コミュニケーション能力や人のかかわりを学ぶことが大切である。そのためには発表する場が必要であるが、池田北高校では多くの実体験ができていることはうらやましい。

(その他)

○今後の大阪の入試改革がうまく生徒、保護者に伝わるか心配である。

4 お礼の挨拶 校長 辻 芳之

今年度で、私は退職となりますが、協議会委員の皆様にはもう1年の任期期間も是非本校の教育活動にご支援を賜りたい。

5 閉 会 事務局長 教頭 田畑 匡